

# 回覧

# 朝日小屋密着レポート

朝日町地域おこし協力隊

# まめなけ！新聞

町民の皆様こんにちは！

8月より『まめなけ！新聞』として、私たち地域おこし協力隊の活動や、町で発見した魅力などをお伝えしていきたいと思えます。

第一回目の今回は、朝日町の町名の由来にもなった朝日岳に建つ、朝日小屋の小屋開けから小屋締めまでの風景をシリーズでお伝えします！



朝日小屋管理人  
清水ゆかりさん(笹川)

平成29年8月1日

第一号

記者：横山

密着スタート



へりで荷揚げするため、用途別に段ボールにまとめる



小屋の営業に必要な物資を大量に購入し、自宅に収集



全て梱包出来たら北又のへりポートへ！！  
※荷物はこれだけではありません。これはほんの一部です



へりで荷揚げられる重量は決まっているため、1つ1つ荷物の重さを計り箱に記入



タオルなどは汚れや水から守るために巨大ラップでラッピング

小屋開け準備は数カ月も前から始まります。里のように足りないものがすぐ手に入る環境ではないため、忘れものが無いように物資を購入したり、お漬物を漬けておいたり大変な労力がかかります。「これで大丈夫か：不備はないか：」と荷揚げまでの日々を不安感に襲われながら清水さんは過ごされるそうです。準備の段階から常に登山者の事、スタッフの事を考えながら小屋開けを迎える心労は計り知れないものがあります。

# ヘリコプター荷揚げ編



一度に揚げる重量約500kgを計量しながら荷造りする



清水さんは先にヘリで小屋へ向かい荷受けの準備をする



清水さん指導のもと、それぞれの役割分担を行う



次の荷物位置を知らせるために手を挙げてヘリを誘導する



ガスや石油もモッコに包み荷揚げする



荷崩れしないようにブルーシート、巨大ラップ、緑ネット、モッコで荷物を包む

後日、清水さんの自宅や業者からの荷物を北又のヘリポートへ運び、町内外からの有志30〜40名が集まり手分けして作業します。ヘリでの荷揚げ作業は危険と隣り合わせです。ヘリが放つ強風で石が飛んできたり、最悪の場合ヘリが墜落してしまう可能性さえあります。天候が悪くなれば作ったモッコを荷解きして持ち帰り、晴れた別日にまた同じ作業を繰り返すそうです。



天候を見ながら往復10分程度の荷揚げを26回繰り返す

今年は、初日にモッコは作りましたが曇天だった為荷揚げが出来ませんでした。しかし、翌日は天気恵まれ早朝5時から正午過ぎの半日で約14トン超の荷揚げを終えることが出来ました。このような苦労の賜物で登山者は疲れを癒すことが出来るのだと、改めて小屋のありがたさを感じました。

次回は山小屋のお仕事編です！



記事に関するお問い合わせ  
朝日町役場・地域おこし協力隊  
☎ (0765) 83-1100 (代)